

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程）

事業者名：学校法人 伊勢学園

研修カリキュラム（要綱別紙1）		実施計画					
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数				実施内容	
1	職務の理解 6時間	1	職務の理解	時間数	うち通学	うち通信	1 職務の理解
	(1)多様なサービスの理解		(1) 介護とは、介護サービスの仕事とは	3 h			(1) ・介護保険サービス ・介護保険外サービス
	(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 介護の仕事とキャリアシステム	3 h			(2) 居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容・実際のサービス提供現場の具体イメージ
2	介護における尊厳の保持・自立支援 9時間	2	介護における尊厳の保持・自立支援	時間数	うち通学	うち通信	2 介護における尊厳の保持・自立支援
	(1)人権と尊厳を支える介護		(1) 人権と尊厳の保持、QOLの考え方、ノーマライゼーション、虐待防止・身体拘束禁止、個人の権利を守る制度の概要	6 h			(1) ・個人としての尊重・アドボガシー・介護分野におけるICF・QOLの考え方・生活の質・ノーマライゼーションの考え方・身体拘束禁止・高齢者虐待防止法・個人情報保護法
	(2)自立に向けた介護		(2) 自立支援、介護予防	3 h			(2) ・残存能力の活用・動機の欲求・意欲を高める支援・個別性／個別ケア・介護予防の考え方
3	介護の基本 6時間	3	介護の基本	時間数	うち通学	うち通信	3 介護の基本
	(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 介護環境の特徴の理解、介護の専門性、介護にかかわる職種	2 h			(1) ・訪問介護と施設介護サービスの違い・重度化防止・遅延化の視点・異なる専門性を持つ他職種の理解
	(2)介護職の職業倫理		(2) 職業倫理	1 h			(2) 専門職の倫理の意義・介護の倫理・プライバシーの保護、尊重
	(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 介護労働における安全の確保、事故予防、安全対策、感染対策	2 h			(3) 事故に結びつく要因を探り対応していく技術・リスクマネジメント・感染の原因と経路
	(4)介護職の安全		(4) 介護職員の心と体の健康管理	1 h			(4) 介護職の健康管理が介護の質に影響・ストレスマネジメント・腰痛の予防に関する知識

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間		時間数	うち通学	うち通信	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
(1) 介護保険制度	(1) 介護保険制度創設の背景と目的 介護保険制度の動向・しくみ 介護サービスの分類と種類 主な介護サービスの内容とサービス事業者・施設 保険給付以外の事業	4 h			(1) ケアマネジメント・予防重視型システムへの転換・地域包括支援センターの設置・地域包括ケアシステムの推進・保険制度としての基本的仕組み・介護給付と種類・要介護認定の手順・財政負担・指定介護サービス事業者の指定	
(2) 障害者総合支援制度及びその他の制度	(2) 障害者自立支援制度の背景・基本的な構造・しくみと運営の現状 生活保護制度、成年後見制度、日常生活自立支援事業	4 h			(2) 障害の理念・ICF・介護給付、訓練等給付の申請から支給決定まで・個人情報保護法	
(3) 医療との連携とリハビリテーション	(3) 介護における医療と福祉の連携 介護職と医行為、リハビリテーション	1 h			(3) 医行為と介護・訪問介護・リハビリテーションの理念	
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間		時間数	うち通学	うち通信	5 介護におけるコミュニケーション技術	
(1) 介護におけるコミュニケーション	(1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 コミュニケーションの技法 道具を用いたコミュニケーション 利用者・家族とのコミュニケーション	3 h			(1) 相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮・傾聴・共感の応答・言語的、非言語的コミュニケーションの特徴・利用者の思いを把握する・意欲低下の要因を考える・利用者の感情に共感する・視力、聴力の障害、失語症、構音障害、認知症に応じたコミュニケーション	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	(2) 記録による情報の共有化 介護サービスにおける報告、連絡、相談 コミュニケーションをうながす環境	3 h			(2) 介護における記録の意義、目的、利用者の状況を踏まえた観察と記録・介護に関する記録の種類・報告、連絡、相談の留意点・会議・情報共有の場	
6 老化の理解 6時間		時間数	うち通学	うち通信	6 老化の理解	
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	(1) 老化に伴う心身の変化・日常生活	3 h			(1) 防衛反応の変化・喪失体験・身体機能の変化と日常生活への影響・咀嚼機能の低下・筋、骨、関節の変化	
(2) 高齢者と健康	(2) 高齢者に多い病気と生活上の留意点	3 h			(2) 骨折・筋力の低下と動き、姿勢の変化・関節痛・循環器障害・老年期うつ病症状・誤嚥性肺炎	
7 認知症の理解 6時間		時間数	うち通学	うち通信	7 認知症の理解	
(1) 認知症を取り巻く状況	(1) 認知症ケアの理念	1 h			(1) パーキンソンセンタードケア・認知症ケアの視点	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	(2) 認知症の概念、認知症による障害 健康管理	2 h			(2) 認知症の定義・物忘れとの違い・せん妄の症状・健康管理・治療・薬物療法・認知症に使用される薬	
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	(3) 中核症状、周辺症状 認知症の利用者への対応	2 h			(3) 認知症の中核症状・認知症の行動、心理状態・不適切なケア・本人の気持ちを推察する・プライドを傷つける	
(4) 家族への支援	(4) 家族への支援	1 h			(4) 認知症の受容過程での援助・介護負担の軽減	

8 障がいの理解	3時間
(1) 障害の基礎的理解	
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	
9 ことごとからだのしくみと生活支援技術	7.5時間
ア 基本知識の学習	10~13時間
(1) 介護の基本的な考え方	
(2) 介護に関することごとからだのしくみの基礎的理解	
(3) 介護に関することごとからだのしくみの基礎的理解	
イ 生活支援技術の講義・演習	50~55時間
(4) 生活と家事	
(5) 快適な居住環境整備と介護	
(6) 整容に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護	
(7) 移動・移乗に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護	
(8) 食事に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護	

8 障がいの理解	時間数	うち通学	うち通信
(1) 障害の概念、ICFの考え方 障害者福祉の基本理念	0.5h		
(2) 身体障害、知的障害、精神障害、その他の心身の機能障害	2h		
(3) 家族の心理、家族への支援	0.5h		
9 ことごとからだのしくみと生活支援技術			
ア 基本知識の学習	時間数	うち通学	うち通信
(1) 理論と法的根拠に基づく介護	3h		
(2) 人の記憶の構造、意欲の理解と支援	3h		
(3) 人体の構造や機能の理解、行動が起こる理由	6h		
イ 生活支援技術の講義・演習	時間数	うち通学	うち通信
(4) 家事と生活の理解 家事援助に関する基礎的知識と生活支援	6h		
(5) 快適な居住環境に関する基礎知識 高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法	3h		
(6) 整容に関する基礎知識・支援技術	3h		
(7) 移動・移乗に関する基礎知識 さまざまな移乗・移動に関する用具とその活用方法 介護職員にとつての負担の少ない移動・移乗の支援方法 移動と社会参加の留意点と支援	9h		
(8) 食事に関する基礎知識 食事環境の整備・食事に関連した用具活用方法	9h		

8 障害の理解
(1) ICFの分類と医学的分類・ICFの考え方・ノーマライゼーションの概念
(2) 視覚障害・聴覚・平衡障害・音声、言語、咀嚼障害・肢体不自由・内部障害・知的障害・統合失語症、気分・依存症などの精神疾患・高次脳機能障害
(3) 障害の理解、受容支援・介護負担の軽減
9 ことごとからだのしくみと生活支援技術
ア 基本知識の学習
(1) ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除
(2) 学習と記憶・感情と意欲の基礎知識・自己概念と生きがい・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因・ことごとの持ち方が行動に与える影響
(3) 人体の各部の名称と動き・骨・関節・筋に関する基礎知識 中枢神経系と体性神経・自律神経と内部機関に関する基礎知識・ことごとからだを一体的にとらえる・利用者の様子の普段との違いに気づく視点
イ 生活支援技術の講義・演習
(4) 生活歴・自立支援・予防的な対応・主体性、能動性を引き出す・多様な生活習慣・価値観
(5) 家庭内に多い事故・バリアフリー・住宅改修・福祉用具貸与
(6) 身体状況に合わせた衣服の選択、着脱・身支度・整容行動・洗面の意義、効果
(7) 利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法・利用者の自然な動きの活用・残存能力の活用、自立支援・重心、重力の動きの理解・ボディメカニクスの基本原則・移乗介助の具体的な方法・移動介助・褥瘡予防
(8) 食事をする意味・食事のケアに対する介護者の意義・脱水の弊害・食事と姿勢・咀嚼嚥下のメカニズム・空腹感・口腔ケアの定義・誤嚥性肺炎の予防

第1-2号様式

(9)入浴、生活保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(11)睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(12)死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	
ウ 生活支援技術演習	10~12時間
(13)介護課程の基礎的理解	
(14)総合生活支援技術演習	
10 振り返り	4時間
(1)振り返り	
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	
追加カリキュラム	
計	(130 時間)

入浴、清潔保持に関する基礎知識	9 h		
(9) さまざまな入浴用具と整容用具の活用 楽しい入浴を阻害する心と体の要因			
排泄に関する基礎知識	6 h		
(10) さまざまな排泄環境整備と排泄用具の 活用方法			
睡眠に関する基礎知識	3 h		
(11) さまざまな睡眠環境と用具の活用方法			
終末期に関する基礎知識	3 h		
(12) 「死」に向き合うところの理解 苦痛の少ない死への支援			
ウ 生活支援技術演習	時間数	うち通 学	うち通 信
(13) 介護課程の展開	3 h		
(14) 事例による展開【事例1. 2. 3】	9 h		
10 振り返り	時間数	うち通 学	うち通 信
(1) 振り返り	1 h		
(2) 具体的にイメージできるよう事業所 における実習	24h		
計	(時間)		

羞恥心や遠慮への配慮・体調の確認・全身清拭・目、	(9) 鼻腔、耳、爪の清潔方法・陰部清浄・足浴、手浴、洗 髪
排泄とは・身体面での意味・心理面での意味・社会的	(10) な意味・プライド、羞恥心・プライバシーの確保・おむ つの使用
安眠のための介護の工夫・環境の整備・安楽な姿勢	(11)
終末期ケアとは・高齢者の死に至る過程・臨終が近づ	(12) いた時の兆候と介護・介護従事者の基本的態度・他 職種間の情報共有の必要性
ウ 生活支援技術演習	
介護過程の目的、意義、展開・介護過程とチームアプ	(13) ローチ
事例の提示(高齢分野、障害分野)	(14)
10 振り返り	
(1) 研修を通して学んだこと・今後継続して学ぶべきこと	
(2) 介護実習3日 在宅サービス提供現場見学1日	
計	